

県外の中学生 2 グループの課外授業の受け入れを実施いたしました！

実施日：2025 年 4 月 22 日、2025 年 5 月 21 日

仙台長町未来共創センター（以下長町 FC）は、宮城県が SDGs を学べる“生きた教材”を紹介する「宮城県教育旅行ガイドブック」に 2023 年より掲載されています。

宮城県教育旅行ガイドブックを通して、これまでは県内の学生の課外授業の受け入れを実施しておりましたが、今回ははじめて県外からの申し込みがあり中学生 2 グループの受け入れを行いました。どちらも東日本大震災が起きた 2011 年生まれの方が中心のグループとなっていて、防災は常日頃からの学習テーマであるとのことでした。



宮城県教育旅行ガイドブック

【北海道北広島市の中学 3 年生】 仙台長町未来共創センターと地域住民とのつながりについて学ぶ



はじめてのアルファ米（携帯おにぎり）



見たことのない備蓄品の数々への驚き

1 グループ目は北海道北広島市の中学 3 年生 5 名で、「なぜ仙台長町未来共創センターが建てられたのか、そして地域住民とどのようなつながりがあるのか」というテーマを持ち来訪されました。

事前学習でピックアップした“共創と共生”“リバーシブルビルが非常時にどのように変化するのか”“オフィスビルの備え”などのキーワードをもとに、自分たちが住んでいる地域の防災を強化するためにはどうすれば良いのだろう、という視点で授業に臨んでいました。長町 FC では地域の方々の施設見学を随時受け入れていること、施設の仕組みや設備が避難者だけではなく地域住民の助けにもなること、再生可能エネルギーの活用が持続可能な社会に貢献していること、テナントとともに非常時に備えた訓練を定期的に行っていること等について、必死にメモを取る姿が見られました。

長期保存食は乾パンしか食べたことがないという 5 名でしたが、備蓄品の携帯おにぎり（尾西食品）を作って食べるという体験を通して「アルファ米は普段と変わらない食事を手軽にとれて便利」という学びを得られたようでした。

【北海道北斗市の中学 3 年生】 地方自治体と道・国の「防災」に対する連携について考える

2 グループ目は北海道北斗市の中学生 4 名で、自分たちが住んでいる北斗市の活性化のために防災というテーマを選択し、「地方自治体や国とどのように連携していくべきか」のヒントを探しに来訪されました。

北斗市は 2 カ所の市町村と防災に関する協定を結んでいるとのこと、長町 FC の 4 者協定や防災リバーシブルビルとしての機能、一時滞り場所開設訓練の内容について等、実際の施設運営に踏み込んだ質問をいただきました。

施設見学では、かまどベンチや受水槽に対して「普段から使うことが出来るし非常時にあると助かる。この使い方がリバーシブルになっているのか」という声や「エレベーターもエントランスも広くて荷物が運びやすい」という大人さながらのコメントが飛び交っていました。

長町 FC は今後も生きた教材として、県内外問わず学生や教育機関の防災についての学習を支援してまいります。



かまどベンチの多機能性について学ぶ